

5年目の正直～阪神タイガース優勝の軌跡

世間では18年ぶりの優勝と言われていますが、その期間Bクラス15回、最下位10回だったのですから、ファンが舞い上がって喜び、とまどう気持ちもわかるのではないのでしょうか。

今年の阪神は確かに強かった。例年の春先だけでなく、『ウサギとカメ』のカメのように勝ち星を重ね、とうとうウサギが追いつけない領域まで進んだという優勝のしかたでした。

阪神が強くなるきっかけは5年前の野村前監督の就任であったと思います。それまでの阪神OB監督にはできなかった改革をあえて行なうために、当時ヤクルト監督をやめた直後の野村氏を招き、チーム作りを委ねました。その後3年間は、5月くらいまでは上位にいたものの、最終結果は優勝チームに20ゲーム以上はなされた3年連続最下位に甘んじました。

知将野村氏をもってしても改革は困難かと思われましたが、この3年間は無駄ではなかったと私は思います。守備の要と言われる捕手の矢野選手を育て、赤星・藤本選手他足の速い若手を積極的に起用し、肩の強い桧山・濱中選手を外野にそろえるといった、広い甲子園球場の特性を生かした戦い方を当時から目指していました。数字や結果には現われないのですが、今年の優勝の基礎作りは確かにこの時期に行なわれていたのです。

星野監督は、野村前監督ができなかった選手の意識改革や金本・伊良部選手などの補強を行なえる強い求心力を持った監督ですので、もちろん指導者として一流であることは間違いありません。しかし、もし5年前に阪神の監督を引き受けていたとしたら、今年のような2年目の優勝はなかったと思います。その意味で今年の優勝は、野村・星野監督の5年間に渡るリレーが成した結果だと思えます。

さて、勉強の話にもどりましょう。基礎学力づくりと言え、たとえば国語の語彙力などはそれ自身すぐ得点に結びつかないように思われるかもしれませんが、その力不足のため「問題文の意味や指示がわからない」という塾生が最近増えてきています。また、数学の計算力のよう「やり方はわかっているから大丈夫」と反復練習を軽んじている人ほど、結局テストでミスを繰り返すケースもよくあります。さらに社会の用語など、広範囲であるために一夜漬けが困難なものには、「社会（覚えるの）は苦手だから」と理由にならない言い訳をする有様です。

高校入試は中3の3学期にあります。しかし小学生、中1、中2のそれぞれの時期に鍛えるべき基礎をおろそかにしては、結局追いつけなくなるのです。意識を変えないとよい結果は出ませんが、かといって意識を変えるだけで結果が出るほど底の浅いものではありません。